

イベント開催時のチェックリスト

【令和4年9月版】

開催概要		
イベント名	ワークショップ「山里社会における生業の多様化と個性の時代 ―近世・近代の下伊那地域―」	
出演者・チーム等	報告者等5名（樋口貴彦氏、角和裕子氏、吉田ゆり子氏、多和田雅保氏、太田仙一）	
開催日時	日付	令和4年12月3日（土）
	時間	午前10時～午後4時30分
開催会場	上郷公民館	
会場所在地	飯田市上郷飯沼3145-1	
主催者	JSPS科学研究費助成事業基盤研究(A)「南信濃山里社会の文化的景観とその歴史的形成過程に関する基盤的研究」(代表者 吉田ゆり子)、飯田市歴史研究所	
主催者所在地	飯田市鼎下山538	
主催者連絡先	(電話番号)	(メールアドレス)
	0265-53-4670	iihr▲city.iida.nagano.jp（▲を@に置き換える）
収容率 (上限)	大声なしで開催	
	①収容定員あり 100% (※)	②収容定員なし 人と人が触れ合わない程度の間隔
	✓ ③収容定員あり 50% (※)	④収容定員なし 十分な人と人との間隔(最低1m)
	⑤収容定員あり 大声なしのエリア: 100% (※) 大声ありのエリア: 50%	⑥収容定員なし 大声なしのエリア: 人と人が触れ合わない程度の間隔 大声ありのエリア: 十分な人と人との間隔(最低1m)
収容定員(注)	100人	
参加人数(注)	50人(最大)	
その他 特記事項	チラシやHP等により、感染症対策への協力(マスクの着用、体調が優れない場合の参加自粛)の周知を図っている。 ワークショップの開催中に発話をするのは、マイクを持った報告者、質問者、司会者のみ。	

(※) 大声の定義を「観客等が、通常よりも大きな声量で、反復・継続的に声を発すること」とし、これを積極的に推奨する又は必要な対策を十分に施さないイベントは「大声あり」に該当することと整理する。

(注) 収容率(上限)において、③を選択した場合は、「大声あり」と「大声なし」のエリアの区分ごとの収容定員・参加人数を記載すること

感染防止策に係るチェック項目

(注) イベント開催時には、下記の項目(イベント開催時の必要な感染防止策)を満たすことが必要です。

※5,000人超かつ収容率50%超のイベント開催時には、個別のイベントごとの具体的な対策を記載した「感染防止安全計画」の提出が必要です。

1. イベント参加者の感染対策 (1) 感染経路に応じた感染対策

①飛沫感染対策	✓	適切なマスク(不織布マスクを推奨。以下同じ。)の正しい着用の周知・徹底
	✓	イベント会場(客席、入退場口やトイレ等の共用部)におけるイベント参加者間の適切な距離の確保
		(※)大声の定義を「観客等が、①通常よりも大きな声量で、②反復・継続的に声を発すること」とする。 <u>「大声あり」、「大声なし」のエリアを区分して開催する場合、上記対策に加えて、</u>
		大声なしエリア・大声ありエリアの明確な区分があり、それぞれにおける、イベント参加者間の適切な距離の確保
		大声なしエリアにおける、大声を防止するための対策の実施
②エアロゾル感染対策	✓	機械換気による常時換気又は窓開け換気
	✓	適切なマスクの正しい着用の周知・徹底【①と同様】
	✓	イベント会場(客席、入退場口やトイレ等の共用部)におけるイベント参加者間の適切な距離の確保【①と同様】
③接触感染対策	✓	イベント参加者によるこまめな手洗・手指消毒の徹底や、主催者側によるイベント会場(客席、入退場口やトイレ等の共用部)の消毒の実施
	✓	イベント会場(客席、入退場口やトイレ等の共用部)におけるイベント参加者間の適切な距離の確保【①と同様】

1. イベント参加者の感染対策 (2) その他の感染対策

④ 飲食時の感染対策	✓	前項(1)感染経路に応じた感染対策と併せて、飲食時の感染対策(食事中以外のマスク着用、飲食に伴いマスクを外す際の会話自粛等)の徹底の周知
⑤ イベント前の感染対策	✓	発熱等の症状がある者のイベント参加の自粛の呼びかけ
⑥ 感染拡大防止策	✓	イベントで感染者が発生した際の参加者への注意喚起

2. 出演者やスタッフの感染対策

⑦ 出演者やスタッフの感染対策	✓	出演者やスタッフによる、練習時・本番等における前項(1)感染経路に応じた感染対策に加え、健康管理や必要に応じた検査等の実施
	✓	舞台と客席との適切な距離の確保など、出演者やスタッフから参加者に感染させないための対策の実施

上記のチェック項目に加え、各業界が定める業種別ガイドライン(該当する業種において策定されている場合)を遵守します。